

社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟

2007 年度 6 月通常総会議事録

日 時：2007年6月14日（木） 13:00～17:00

場 所：東京都大崎労政事務所・南部労政会館第6会議室

出席者：(1頁参照)

1. 開会のことば

大沢副会長より2007年度6月通常総会の開会を宣言した。

2. 会長挨拶

下村会長から、日頃の連盟活動への協力に対し感謝の意を表明するとともに本総会議事進行への協力をお願いした。

3. 本通常総会概要説明と正会員出欠確認

松田理事より理事の紹介と、本総会の出欠確認が行われた。(1頁参照)

4. 感謝状贈呈

国体デモンストレーションスポーツ行事を通してハング・パラグライディングの普及と振興に貢献した岡山ハング・パラグライディング連盟（2005年開催）及び兵庫県フライヤー連盟（2006年開催）に感謝状が贈られた。

5. 議長選出

埼玉県ハング・パラグライディング連盟下山進理事長を議長に選任。定足数の確認、議事録署名人、議事録作成人の確認が行われた。

定数数の確認：出席正会員38名、委任状5名、合計出席者43名。

社団法人日本ハング・パラグライディング連盟定款第31条により、正会員
現

在数の3分の2(32名)以上の出席が認められたので本総会は成立し。

議事録作成人の指名：事務局 桜井加代子

議事録署名人の指名：高知県連 吉良徹 徳島県連 榎本清治
(署名人は例年の順番により決定)

議長より、議事進行上の注意事項と傍聴者の確認が行われた。

5. 議事

第1号議案 2006年事業報告の承認について

下村会長から 2006 年度事業報告書について別紙のとおり説明した。委員会等活動報告補足についてはそれぞれの委員長・部長が報告した。

特筆すべきことは、フライヤー会員の減少傾向が小さくなり収支が改善されてきたこと、重大事故が減少してきたこと、連盟の活動が理事会中心から委員会・広報出版部を主体とする活動にシフトしてきたことである。

またフライヤー会員の口座振替、総合保障制度の発足、技能証カードのデザイン変更などの新事業、改善改革なども行われた。

第1号議案について採決し【賛成：42 反対：0 異議：0】で可決された。

第2号議案 2006年度決算の承認について

下村会長から 2006 年度決算案について別紙のとおり説明した。
特筆すべき点は収支の改善が図れたこと、そのことは①現預金 1000 万円、②基本財産 2000 万円、③運営基金積立金 1800 万円、④教本積立金 240 万円、合計 5040 万円の残高に示されていると説明。

説明の後、青森県連から次の要望があった。

1. 業務発注に当たっては、正式の契約手続きを踏んで実施すること
2. 監事は執行部と一線を引いて、その業務遂行の本来のチェックに努めること
3. 定款に理事辞任の取り扱いが明確になっていないので制度委員会に諮問すべきこと
4. 4名の理事辞任の理由がいずれも正当性を欠き、特に 1 名は利益誘導とも受け取れ兼ねないので、適正な対応を望む

これに対し下村会長から、青森県連要望については次期理事会へ申し送りすることを表明した。また対馬監事は、監事についての指摘は誤解に基いており、監事は本来の任務を遂行している旨回答した。

最後に対馬監事から業務監査結果について適正であったことが報告された。

第2号議案について採決し【賛成：41 反対：0 異議：0】で可決された。
(京都府連 1名退席中)

第3号議案 2007年度事業計画の承認について

大沢副会長から 2007 年度事業計画について別紙のとおり説明した。

これに対し各連盟から次の指摘があった。

大阪府連：毎回のようにフライヤー人口の増加を掲げるが具体性が無い。新しい愛好家も増えているがやめて行く愛好家も多い。どうしてやめるのか分析し、その部分に予算を出して、対応策

をとて欲しい。

北海道連： JPAとの協調と記されているが、なにか意味があるのかどうか。

下村会長：JPAに係わらずスカイスポーツの各団体とコミュニケーションを円滑にしたい。
将来的にはどの団体も縮小する傾向にあり、加入保険等についてもお互い協力していく必要がある。JAAの意向もその方向である。

秋田県連：お互い正会員、その役員、クラブの会員というように、フライヤー会員が失効していないかチェックする運動を展開していく必要がある。JHFもやっとそういうところまで意識が高まったかという想いである。

岡山県連：JPAとの話し合いの進捗状況、今後の具体的アプローチについて説明願いたい。

下村会長：昨年岩屋でのPWC開催を巡ってJHFが妨害したのではないかと誤解をされました。
これについては現地の第三者の文書記録を開示して頂いた結果、JAAも文科省も真実の理解に至りました。
しかしながらこの第三者資料はその性格上、正会員や一般のスクールには公開できません。
JPAも3年経ち当初の目論見との乖離もでてきており、反省期にきていると思われる所以、相手の立場も尊重しながら妥協点を見出したい。

第3号議案について採決し【賛成：42 反対：0 削除権：0】で可決された。

第4号議案 2007年度予算案について

荒井常任理事から2007年度予算案について別紙のとおり説明した。

福岡県連からの要望/質問

- 1 収支が健全になったなら、都道府県連盟助成金も本来の額に戻すべきである。
- 2 各委員会のホームページの運営をhangparaのドメインの下に統一して管理できないか
また都道府県連盟のホームページも同じドメインで運営できるようにしてもらいたい。

1について荒井常任理事から、収支は正常に戻りつつあるが、もう一年様子を見させてもらいたい。都道府県連盟助成金を当初予算より補正したことを説明した。
また2について、下村会長から新理事会に申し送る旨回答した。

大分、秋田両県連から国体事業費の前年度並み確保の要望があった。

下村会長から国体行事がハング・パラグライディングの普及にとって大変有意義であるとし、具体的要望があれば企画書を出していただければ予備費で検討したい旨回答した。

第4号議案について採決し【賛成：42 反対：0 削除権：0】で可決された。

第5号議案 JHF顧問の承認について

城理事からJHF顧問の承認について別紙のとおり説明した。

これに対し各正会員から次のような要望と意見が提出された。

東京都連：以下の3条件の厳守を要望する。

- ① 政治活動はしない
- ② 政治献金はしない
- ③ 勉強会に当たって理事を指名しない（理事の自由意志を尊重する）

秋田県連：JHFはハング・パラグライディングの愛好者の団体であり特定の政党に偏るべきではない。自由飛行を守ること、公益法人としての資格を維持することは日常の活動ですべきであつて政治家の力を頼ってはいけない。過去に日本マイクロライト航空連盟が規制を受けたのは組織の弱さから来たものであり、47都道府県の連盟がどの様に活動をしていくかが大事である。

福岡県連：顧問には任期の定めが無いので慎重に選ばないといけない。政権が変わると対応も問題である。制度委員市川さんにその辺を伺いたい。

市川制度委員：他の公益法人の事務局長をやっております。その経験から言いますと、政治家の力を借りて行政に対して何らかのメリットを得ようということは、社団法人としてすべきではありません。私どもの団体ではパーティ一券の購入など一切の政治活動をやっておりませんし所轄の経済産業省の理解も十分得られている。

宮崎県連：渡邊元会長が宮崎に来られた時、顧問にお願いした方が選挙で落選すると対応に困りますから気をつけなさいといわれた。宮崎県連では顧問は1人も置いていない。

下村会長：東京都連の提案する3条件の厳守は当然であり、政治活動をすることはまったく無い。最近フライヤーの自己規制意識が薄ってきており自由飛行を維持できなくなる恐れがあるので心配している。公益法人制度の改革を控え、これまでの公益法人としてのメリットを維持するためにも理事会として顧問制度の活用が必要であると判断した。

第5号議案について採決し【賛成：11 反対：22 異議：9】で否決された。

第6号議案 JHF及び都道府県連盟のプライバシーポリシー規約の制定について

菊池理事からプライバシーポリシー規約制定について趣旨説明し、小林制度委員長が補足説明をした。

東京都連から「プライバシーポリシー」というカタカナではなく単純に「個人情報保護」という日本語に直した方が明確ではないか質問があった。

これに対し小林制度委員長がプライバシーポリシーはすでに日本語化されており一般のホームページなどでもその表現になっていると理解を求めた。

第6号議案について採決し【賛成：38 反対：0 異議：4】で可決された。

第7号議案 JHF役員の選任について

岩間選挙管理委員長からこれまでの経過説明があり、今回の選任選挙が信任投票であることが報告された。その後各立候補者がそれぞれ 1 分間で自己紹介をした。

立候補者自己紹介

(理事)

荒井候補： 2 年間予算の正常化に努力してきた。なお搖ぎないものにするため立候補した。具体的な施策としてフライヤー会費の口座振替制度を導入したのでこれを促進したい。またフライヤー会員の増加を図りたい。

内田候補： 私が飛び始めたのは 1977 年、今から 30 年前。来年 2008 年は日本ハンググライディング委員会が航空協会の中に設置されて 30 年ということです。この世界を革新していくことも重要ですが、私たちの軌跡がどういう方向に向いているのか考えることも大事だと思います。

大沢候補： 1 期 2 年理事を務めてきたが、もう 1 期微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思い立候補した。

菊地候補： 33 年前、26 歳でハンググライディングを始めた。その頃 60 歳位の方々に私達の世話をしていた。今度は私達が若い人達のお世話ををしていきたい。過去 2 年間、財政の建直しと経費の節減に取り組んで来た。いよいよ委員会活動の改善に取り掛かりたく立候補した。

下村候補： 4 年前他団体発起人の方の推薦で立候補したので、一次スパイではないかと思われました。しかし同じスカイスポーツ、皆仲良くやっていきたい。空というものは自由自在ということですが、自由自在も不自由なものだと思い飛んでいる。先月から年金生活になったので、引き続き 2 年間ボランティアを続けさせていただきたい。

城候補： 2 年間理事を経験し、ようやく JHF がどの様に動くのか、事務局の動きや理事の方々の考え方、皆さんと考え方も分かって来た。もう 1 期やらせていただければ、守りの視点から攻めの視点の政策を具体化し実行していきたい。

萩原候補(代神奈川県連荒井理事)： 萩原氏は楽器メーカーの OL で、神奈川県連の体験会を手伝ったことがきっかけで、フライヤーとなつた。パラグライディングの普及活動に大変興味を持っており、JHF に協力したいとの希望があつたので神奈川県連で推薦させていただいた。

松田： JHF が出来る前からこのスポーツの普及に関わつて來た。JHF 設立から 25 年経つた今もここまでなのがなという感じと、皆さんのお陰でここまでやれて來たのだなという部分がある。あと 2 年間で、まだここまでかという部分を少しでもよく出来ればと思う。

(監事)

市川候補： 予算及び事業計画の執行をチェックしていくのが監事の重要な仕事である。新しい公益法人制度の下でも、JHF が従来どおり公益法人としてやっていけるよう少しでも尽力したい。私の公益法人での経験が JHF の公平で中立の業務運営に活かせられるよう職務を果たしたい。

対馬候補： 公認会計士としての経験を活かし私なりに一生懸命監査をしてきた。事務局に対しても正しい記帳を指導し、かつ正会員には事実を報告してきた。PG 教本業務契約について、危

機感をもって直接修正指導してことが監査業務を怠っていると言われたのは残念。

自己紹介の後、岩間委員長から信任投票の要領について説明し、立会人に宮崎県連、香川県連、北海道連盟が指名されて、投票に移った。

開票結果は以下のとおりである。

投票総数 38 票/ 有効投票数 38 票/ 信任投票数 20 票以上

各候補者の獲得票数

【理事】荒井健雄 27 票、内田孝也 37 票、大沢豊 36 票、菊池守男 35 票、下村孝一 35 票、

城涼一 32 票、萩原智子 28 票、松田保子 37 票

【監事】市川孝 38 票、対馬和也 32 票

理事監事とも立候補者全員信任された。

選挙立会人から投票が適正に行われた旨報告があり、各候補者は JHF 役員選挙規約第 76 条により 2 週間(14 日間)の異議申し立て期間を経た後正式に選任される。

7. 報告及び連絡事項/その他

1) JHF への意見・要望事項

- ① 理事会議事録は少なくとも当月中に配布してもらいたい（東京都連）
- ② 8 月 18 日、19 日に第 62 回国体のデモスボ行事を行うので JHF 及び皆さんの支援をお願いしたい。（秋田県連）
- ③ 新パラグライダー教本も現行と同様にクラス別に編集してもらいたい。（岡山県連）
- ④ 新教本の完成を待ってもらっているので秋までには完成して欲しい（大阪府連）
- ⑤ JHF レポートはフライヤーにとって大きなメリットなので是非発行してもらいたい。予算的に厳しいなら広告料で補うなどの工夫を考えてもよい。（福岡県連）
- ⑥ 11 月 10 日～11 日、都城でスカイレジャージャパンが開催されます。来年もしくは再来にパラグライディング日本選手権の開催を立候補します。（宮崎県連）

2) 兵庫県のじぎく国体パラグライダー大会報告

兵庫県連村上理事長から兵庫県のじぎく国体パラグライダー大会について報告した。

岡山国体パラグライダー大会は行政がやろうと決めてやった大会。兵庫県のじぎく国体は誰も手を挙げずに無理矢理行政を抱き込んでやって雨が降って出来なかった大会。両方ともいいモデルが出来たので、その経験を活用していただきたい。そのために JHF 事務局を通して CD と DVD を配ったので参考にして欲しいと訴えた。

3) 2010 年パラグライディングアジア選手権開催計画

愛媛県連門田理事長から、四国 4 県連の共同企画として、別紙のとおり 2010 年パラグライディングアジア選手権開催計画について報告した。

第 1 回の韓国ハドン大会に続き、2010 年大会を四国吉野川エリアに誘致したいので正会員・ JHF の支援をお願いしたいというものです。

岡パラグライディング競技委員長から同エリアがポンシャルが高く安全性の面で優れていること等について補足説明をした。

4) CIVL 岡代表の報告

2009年ワールドエアゲーム開催地が、6月1日、イタリアのトリノに決った。

同年6月7日～13日に開催される。種目としてハングとパラのアクロ、それからパラのアキュラシーが確実視されています。従って2009年パラグライダーアキュラシー世界選手権はワールドエアゲームで開催されますので、皆さん是非頑張っていただきたい。

6. 閉会のことば

荒井常任理事より出席者に謝意が表明され、閉会が宣言された。

この議事録が事実と相違ないことを確認し、署名捺印する。

議長

印

(埼玉県連 下山 進)

署名人

印

(高知県連 横川 宏二)

署名人

印

(徳島県連 棕本 清治)

議事録作成人：桜井 加代子